

都會の子供等への同情

一 會 員

私は毎月御誌の發行されますのを、待ちかねて拜見いたして居るものでございます。いつも／＼面白のお話を讀まして頂きまして、どの位修養になつて居ります事かわかりません。私のやうな者が、拙い筆を取りまして何かを申し上げますのは、御恥しい限りでございますが、心に思ひ餘りますので、皆様の御説もお伺ひしたいと存じ、左に一寸述べさせて頂きます。

私の住んで居ります所は、大通りから一寸横に入りました静かな通りのある町でございます。店家等は一軒もなく、皆勤人の方々の家が集つてゐるところでございます。このやうに、静かな通りなものでございますから、子供達が近所から澤山集つてまゐりまして、朝から夕方まで、遊び戯れて居ります。人の往來も少く、車馬の往來などは絶對にありませんから、子供の遊び場としては、非常に適當なのでございます。

然しながら、子供等にはこの上もないよい遊場となるこの通りが、こゝに住む人々の爲に、常に不平の種となつてゐることを、見つけたのでございます。子供等が、ダンスをしたり、鬼ごっこをしたりして、嬉々として叫ぶ聲は、うるさいと云つても我慢が出来ませうが、小學校の五六年になる男の子は、野球の眞似を致しまして、私の家の玄關の硝子を毎日のやうにわり、お隣の塀を越えて硬い球が障子をうつと云ふ風に、とてもあぶなくつて通ることさへ出来ないであります。日曜日には、朝から日の暮れる迄、學校のある日には朝夕、子供の泣き聲、叫び聲、野球の硝子を破る音を聞かない日はありません。静に落ちついて、忙しい雑務から離れて、冥想したいと思ひましても、とても出来ないでございます。「天氣であればよい」と願ふのが普通な日曜祭日も、子供等に襲はれることを思ひ、「雨が降つてくれればよい」と願ふほどです。これは、何も私一人が考へて

ゐることではなく、近所に住まれる篤學の大學教授も書齋でゆつくり讀書することさへ出来ないと言はれるのを耳にしました。

とは云へ、自分等も子供であつた時があり、自分等の子供もこのやかましい群の一人に加はつてゐることを思ひますと、子供等ばかりの罪でなく、子供等への適當な設備を與へぬ事が、子供等自身の不幸大人の不平となるのでございます。

「子供の遊び場がございましたら」と望まずに居られません。遊び場が諸所にありましたら、子供等は其處へ行つて、自由の手足をのばして遊べることでありませう。むづかしい設備がなくとも、唯廣い土地さへあつたらよろしいと思ひます。全く狭い家におしこめて置いて、子供に利巧になれ丈夫になれと云つたつてどうして出来ませう。子供に、場所を與へてやる事が一番大切であります。

私のうちの近所には、寺院もあれば、學校もありまして、「遊園地」等と特別に騒がないまでも、子供等の遊ぶ場所は、これら寺院の境内や學校の運動場を與へてやつたら、それで立派な役目をするこゝと思ひます。しかしながら、寺院では子供等に境内を

荒らされることを恐れて、僧さんは子供の姿さへ見れば吐りつけますし、學校では日曜日は朝から門を閉ぢ、普通の日でも四時頃から門を閉ぢて、學校から歸つて子供等が一番よく遊ぶ時に、解放してくれないのでございます。寺院とか、學校とか、個人の家でも廣い庭を持つてゐるところは、子供等のために解放して欲しいと思ひます。

私は常に、近所のお母さん方がかう云つてゐるのを聞きます。「うちの子供はごんだ失禮をいたしました。硝子屋さんに私が云つてまゐりますから、どうぞお許しなすつて下さい」と、子供の代りに詫をしつてゐるのを、「ええ、どういたしまして、先日は宅の子供がお宅の障子に球で穴をあけましたのでございますもの。お互様でございますよ。子供が大きくなりますせんうちはほんとうに、世話がやけてまして」と互にお詫のし合ひをして居ります。「あそこのお宅は、大層おこつていらつしやるから、その前では球を投げないやうになさい」と云はれても、子供は直ぐ忘れて、球なげに餘念がありません。こんな、消極的な會話を聞いて居りますと、何故、母親達は協力して、近所のお寺へなり學校へなりへ、遊び場を解

放して貰ひに交渉しにゆかぬのか、と氣がもめるほどでございます。

けれども、これには、こんな理由があるのではな
いか、と想像いたして居ります。日本の母親達は、
非常に子煩悩でありまして、わけもなく子供を手離
すことや、新しいことをさせるのをいやがるのであ
ります。ですから、「御門のそばになら、出て遊んで
もいゝですよ」と子供等に云ふので、子供は皆この
狭ひ通りに集つて來ては、叱られながら小さくなつ
て遊んでゐるのです。近所の學校、寺院も極く近く
で、一丁もないほどですが、そこへ行くのすら、何
か知ら心配のやうな氣が母親にしますので。これでは、遊園地が將來澤山設けられるとしたつて、とても
充分に利用させることは出來ますまいと思ひます。

こゝに於て、母親達に代つて、子供等を保護して
くれる人があつてもよからうと思ひます。私宅の直
ぐ近所の寺院の前には、交番がありますが、もしこ
の寺院の境内が遊園地として解放されましたら
ば、この交番の巡查が子供等の保護、遊び相手とな
つて貰へば、母親達は安心して手離すことが出來る
のであります。しかしながら、巡查と云ふものは、

日本に於ては習慣的に子供等には恐いものと教へら
れてゐますし、又、巡查其自身が劍をさし、子供等
の相手となるやうなデリケートな姿や心を有してゐ
ないのが多くありますから、今のまゝでは巡查と子
供等とは溶け合ふことが出來ないのであります。さ
うすれば、都會に於て、遊園地内の子供、道路に於
ける子供、或は三越等の大デパートメント、ストア
内に於ける子供、劇場其他人の多く集る場所に於て、
子供等は一切の世話を見る人が、必要でないかと思
はれます。これには、巡回保母とでも云ふ名の許に、
婦人のなかゝら、かうした氣高いしかも缺くべから
ざる職業に從來する人が出ることは、時代の要求の
やうに思はれます。日本橋、須田町邊に立つてゐる
交通巡查も時代の生んだものでございました。西洋
には、婦人巡查があると云ひます。私は巡查と云ふ
名を好みませんが、以上述べたやうな目的をはたす
爲に、何か美しくやさしい名の許に、新しい職業の
生れることを欲します。

私は、何もはつきりした考へがあるのでございま
せんけれど、私の住居の附近の子供等がどんなにか
遊ぶのにこまらされてゐるか、又、割に智識階級の
住んでゐるこの邊で大人が子供からどんなに妨げら
れてゐるかを、つくづく實感しましたので、皆様方
の御意見も伺ひたいと存じ、はづかしさを忍んで、
一寸申上げて見ました。